



大野 則男 議員

新たな事務事業に挑戦すべき

問 消防団員確保に、愛西市らしい考えは。

消防長 消防団応援事業所の登録は、経済課を通じて商工会に協力をお願いしている。

問 事業者、団員の候補者向けに、市長自らがメッセージを作り、各団長が新規勧誘に当たれないか。

市長 消防団長や各副団長が、効果があると判断すれば協力していく。

問 女性消防クラブの立ち上げ、女性消防士の雇用に力を注ぐべきだ。女性消防士雇用は、施設問題も含め、可能か不可能か。

消防長 女性の消防活動は、防火啓発や広報活動、女性ならではのきめ細やかな活動が重要だ。当署は、昭和49年施工で、女性消防士の受け入れには不備があり、計画的な設備も考えなければならぬ。

問 防災で、協定だけでなく、覚書、パートナー

契約、パートナーシップを結ぶことも重要だ。協働への考えは。

企画部長 市民活動団体や行政、企業が対等な立場でお互いの違いを認め、連携していき、市民と協働していく。

問 庁舎も新しくなり、新しい体制となる。縦割りではなく、互いが手を結び合ってやっていく考えは。

副市長 全市的及び各部署にまたがる課題を、横断的な特命事項と位置づけし、全庁的な取り組みを進める。



議会運営委員会行政視察
(2月1日～2日)

議会運営委員会は、兵庫県三田市議会・京都府亀岡市議会の行政視察を行いました。

三田市議会では、議長の立候補制と意見交換会の実施状況等について説明を受けました。

議長の立候補制を導入した経緯は、導入以前の話し合いによる選出方法では時間がかかり過ぎ、会期の延長に対する市民からの批判があったためということでした。方法としては、正副議長の立候補は、選挙当日に開催される全員協議会で、所信表明演説を行います。演説順序は届け出順で、一人あたりの時間制限はなく、傍聴も可能となっています。

意見交換会については、平成26年度に開始しており、常任委員会単位でテーマを決め市民を対象に行っています。運営方法は参加者を3つのグループに分け、議員は2名ずつ入り、1つのテーマについての話し合い時間は20分です。課題としては、参加者に高齢者が多く、若い世代にも参加を呼びかけたいとのことでした。

亀岡市議会では、議会改革の取り組みについて説明を受けました。

亀岡市では広報広聴会議を設置しており、